

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和6年度学校評価計画

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

学校名	佐賀市立赤松小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>職員・職員が校長が示す学校教育デザインを受けて、学校評価項目(成果指標・具体的取組)を考え、学校評価アンケート作成まで関わったことで、目標達成への意識が向上し、特に各部での取組が活性化した。</li> <li>赤松小の特色でもあるCSが18年目を迎える。現状の課題解決を見据えながら、更に「地域と共有する学校作り」をすすめていきたい。</li> <li>教員不足や長時間労働が深刻化している中、職員にとってやりがいのある仕事となるよう、さらに働きやすい職場作りを目指す。</li> </ul>
2 学校教育目標	<p>ふるさと赤松を大切に 夢をもった子どもの育成</p> <p>【めざす子どもの姿】 あいさつする子（徳） かんがえる子（知） まげずにがんばる子（体と心） つながる子（関わり）</p>
3 本年度の重点目標	<p>〈今年のスローガン〉 子ども真ん中</p> <p>①確かな学力の向上 ・子ども同士の協働を通じ、考えを広げ深める ・赤松トレジャー（聞き方名人あいうえお）の徹底</p> <p>②豊かな心の育成 ・ほめて伸ばす人づくり ・あいさつレベルアップ</p> <p>③体力の向上 ・夢中になれる体育学習の工夫 ・外遊びの習慣化</p>

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1) 共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践 ○金曜日の朝の時間にスキルタイムを設け、全校でスキル学習に取り組む。	○「めあてとまとめを対応した授業を意識している」と回答する教職員85%以上 ○スキル学習を週1回程度実施し、「分かるようになった」、「できるようになった」と感じる児童80%以上	・分かりやすい授業にむけて、子どもの発言を活用したり、一緒に考えたりして(めあて)を作る。(まとめ)は分かりやすい言葉を利用したり、協働で考えさせたりする。 ・4年生以上がスキルタイムでタブレットPCを週1回程度活用し、スキル学習に活用できる教材の活用と職員研修を定期的実施し、活用できるようにする。				
	◎校内研究において、【粘り強く考え、挑戦し続ける児童の育成】を目指す。	◎「学習や運動において、粘り強く取り組むことができた」と回答した児童85%以上	・算数科や体育科の授業において、児童が試行錯誤できるような場面を設ける。全員参加の授業の実現に向けて、対話的活動やICTを効果的に取り入れた授業実践を行う。				
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○学校アンケートにて、道徳の授業で自分の考えを持ち、友達の交流の中で考えを深めたりすることができた児童が80%以上 ○あいさつポイント(返す、大きな声、自分から、笑顔、立ち止まって)のうち3つ以上できる児童70%以上	・道徳の授業を要として、様々な場面(ぬくもりタイム、全校朝会、生活朝会など)にて、機会をとらえて考えさせたり、交流させたりして、自分の考えを持ち、考えを深めたりさせるようにする。 ・あいさつのポイントを生活朝会などで示し、できるポイントから実践させられるようにする。				
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○毎月1回心のアンケートをとり、児童の心の変化や悩みを早期発見、早期対応できるようにする。 ○いじめの早期発見・対応について、保護者アンケートで肯定的な回答90%以上	・子ども支援全体会や連絡会等で要支援の児童や、心の変化がある児童の情報を共有し、対応していく。				
	●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童80%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童80%以上 ○ふるさと赤松のよさに気付いている児童70%以上	・ぬくもりタイムやハッピートーク等の活動を通して、自己肯定感を高め、意欲につなげる。 ・地域の様々な人材を積極的に活用しキャリア教育の充実を図ったり、コミュニティの活動や地域行事の紹介をしたりする。				
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」	①授業以外で運動やスポーツを行う時間が1週間で420分以上の児童65%以上	・スポーツチャレンジなどの啓発や全校で取り組む運動(マラソンやスポーツフェスタ)を推進し、児童が体を動かすことの楽しさを感じることができるようになる。				
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ○会議、連絡会、研修等の時間は1時間以内、課後の時間を確保する。	・教職員の毎月の勤務時間を把握するとともに、超過勤務の長い教職員に声をかけ、タイムマネジメント力を育む。 ・事前の内容把握と検討により、スムーズに会議の進行を行う。連絡掲示板を活用する。				
●特別支援教育の充実	○全職員、全クラスがインクルーシブ教育を意識し実践する。 ○教室に入れない児童対応の体系化	○配慮、実践している教職員90%以上	・研修会、書籍などで研鑽を積み、日々の関わりに生かす。 ・個別の教育支援計画・個別の指導計画を有効的に活用する。 ・日常的に、個別の支援が必要な児童に関する情報を交換する。				

(2) 本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組		具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
	取組内容	成果指標 (数値目標)					
○コミュニティスクールの推進	○学校運営協議会の協議内容やコミュニティ活動の様子をコミュニティ便りやHPで職員や保護者、地域に知らせる。 ◎活動内容や活動方法を工夫しながらコミュニティの活動の活性化を図る。	○地域活動への参加意識を昨年度よりも5%高める ◎すべての児童が9つのうち5つ以上のコミュニティと関わることができるようにする。	・コミュニティ活動の情報をHP・掲示・配布物等で発信し、より多くの方の理解や協力を得る。 ・地域連携が地域の話し合いや行事に参加して情報を交換し合い、地域の方々の思いや願い、考え等を知る。				

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・</li> <li>・</li> <li>・</li> </ul>
--------------------	---